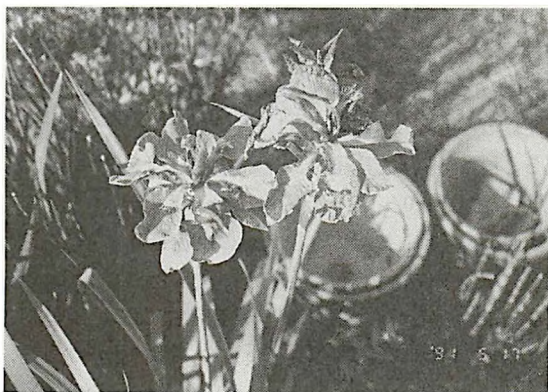


柳井市に八重咲きアヤメ

南 敦

1989年5月22日、柳井市古開作の水島綾子さんから「庭のアヤメから面白い花が咲いたから見て下さい」、「以前からあった普通のアヤメが今年から八重になった」。早速見に行くと確かに八重咲きであった。手持ちの文献26種類を調べても、アヤメに限って「八重咲き」の記載を見い出せなかった。現在、その苗をいただき私宅で増殖し研究している。普通のアヤメでは外花被3枚、内花被3枚、おしべ3本、めしべ1本である。この八重咲きアヤメでは外花被が18~24枚、内花被は0~3枚、正常なおしべは1本もない。めしべはほとんどの花でなく、稀に奇形のがあった。

水島綾子さんはこのアヤメをどこから手に入れたか不明のようで「昔から庭にあった」と言われていた。はたして、1989年に「八重咲き」になったのであろうか。ただし、ユリなどではある年に突然帯化(石化)がおこり数十の花を咲かせることがある。(写真は八重咲きのアヤメ。1991年5月17日、私宅に栽培のもの)



北海道におけるエゾノミズタデの一産地

角 野 康 郎

北海道におけるエゾノミズタデの産地について、本誌24ページで外山雅寛氏が報告しておられるが、そこに挙げられていない産地があるので記録しておきたい。

場所は空知支庁空知郡北村と樺戸郡月形町の境界に位置する雁里沼で北村豊里地区と月形町枯木地区をつなぐ

橋の下付近にかなりの規模の群落をなす。この産地に気づいたのは、石狩川流域の河跡湖の水草を調査して回った10年以上前であるが、今年(1991)8月10日に再び現地を訪れる機会があり、エゾノミズタデ群落の健在を確認することができた。

ところで、今回、石狩川水系の何カ所かの河跡湖を訪れたが、埋立てによって姿を消しているものの多さにあらためて驚いた。何の利用価値もない水域と見なされて埋立てられていくのであろうが、整然と区画整理の進んだ北海道の耕作地の中に残された数少ない自然である。日本では、河跡湖そのものが残り少なくなっている。水生生物の生育環境として保全の手立てを考えるべき重要な水域のひとつであるにちがいない。

○文献リスト (1990-(4))

吾妻光春. 除去に苦勞したり南支の農村で驚いたり
《ホテイアオイは汚水浄化抜群で21世紀のバイオ資源》ホテイアオイ研 Newsletter (17): 18.

井上裕靖・草薙得一. ホテイアオイの個体数増加速度に関する一考察. ホテイアオイ研 Newsletter (17): 16-18.

内山知二・北牧篤志・日野和裕・清水武. クワイの栄養生理特性と肥培管理に関する研究(第1報)クワイ栽培ほ場における養分収支. 大阪農技セ研報 26: 7-10.

幸路次郎. ホテイアオイの開花後における花茎の下垂屈曲について. ホテイアオイ研 Newsletter (17): 14-15.

小宮定志. シロバナミミカキグサ. 植研 65: 185.

齊藤政美. 宮崎県の水生植物II(県南地域). 宮崎県総合博物館研究紀要 (15): 3-10.

猶原 順・大田広正・吉井功知・山下栄次・石井 猛.
ホテイアオイ中の食物繊維含有量と季節変化.
ホテイアオイ研 Newsletter (17): 2-5.

長島 正. マコモ栽培法の概要と除草. 雑草とその防除 (27): 42-45.

新見 正. 用済みタイヤを活用する水上農園芸法. ホテイアオイ研 Newsletter (17): 5-7.

Arima, S., N. Tanaka & F. Kubota. Growth of vegetative organs in water chestnut

- (*Trapa bispinosa* Roxb.). Bull. Fac. Agr., Saga Univ. (68): 49 - 64.
- Kuo, J., H. Iizumi, B. E. Nilsen & K. Aioi. Fruit anatomy, seed germination and seedling development in the Japanese seagrass *Phyllospadix* (Zosteraceae). Aquat. Bot. 37: 229 - 245.
- Tabata, T. Changes in the membrane properties of nodal cells of *Chara braunii* induced by exposure to artificial pond water. Plant Cell Physiol. 31: 1239 - 1242.
- <1991 - (1)>
- 伊藤 至. 新潟県の水草 (I) ミクリ科. 長岡市立科学博物館研究報告 (26): 25 - 34.
- 落合正宏・大沼俊之・鈴木晋一郎・中島拓男. 琵琶湖産コカナダモの分解過程における重量および成分の変化. 水処理技術 32: 35 - 43.
- 角野康郎. 兵庫県産水草目録. 兵庫の植物 1: 2 - 6.
- . 日本の絶滅危惧植物 2. オニバス. 小原流「挿花」(483): 80.
- . 同 6. ミズアオイ. 同上 (487): 80.
- 小宮定志. 北海道に分布するミミカキグサ類. 日本歯科大学紀要 (一般教育系) (20): 85 - 91.
- . 柴田千晶. 羽生市宝蔵寺沼ムジナモ自生水域における環境の変遷 (1987~1990) 及びムジナモ他水生植物の放流実験. 同上 (20): 93 - 120.
- 桜井善雄. 水生植物による水質浄化. 環境科学会誌 4: 149 - 150.
- 下田路子. 広島県西条盆地のコウホネ属植物. 植物地理分類研究 39: 1 - 8.
- 住吉 正・鈴木敬一郎・佐藤陽一・原田二郎. 秋田県の水田におけるアギナシの分布. 雑草研究 36: 85 - 86.
- 竹下 信・円増 肇. コカナダモの衰退とオオカナダモの優占が進む武庫川・猪名川水系~オオカナダモの上流占拠と下流での他種への割り込み他~伊丹の自然 (9): 12 ~ 26.
- . 岡勇以知. 北摂・丹波地域の河川におけるカナダモ類の現況. 兵庫生物 10 (2): 53 - 57.
- 土屋綱夫. ミシマバイカモ. 野草 57: 26 - 27.
- 外山雅寛. コタヌキモの捕虫器官形成に関する実験. 食虫植物研究会誌 42: 8 - 9.
- . 北海道石狩川中流域の沼に分布するタヌキモ科植物. 食虫植物研究会誌 42: 27 - 28.
- 羽生市立三田ヶ谷小学校ムジナモ栽培クラブ. 平成2年度ムジナモ栽培経過報告. 食虫植物研究会誌 42: 14 - 15.
- 初島住彦. 日本新産植物 2 種. 植物地理分類研究 39: 39 [マンセンビシを報告].
- 本橋敬之助・笠原 豊. ホテイアオイの植栽と水質-手賀沼を例にして- 水処理技術 32: 265 - 270.
- 山河重弥. 水田多年生雑草オモダカ (*Sagittaria trifolia* L.) の種内変異. 雑草研究 36: 8 - 16.
- 山崎正夫・津久井公昭. 水生植物による栄養塩類の除去に関する研究 (その1) 神田川における植生調査と成分分析. 東京都環境科学研究所年報 1991, pp. 180 - 185.
- 和田基巳. 壱町田湿地植物群落. 食虫植物の生育状況 (1990 年秋). 食虫植物研究会誌 42: 29.
- Ding, D. Q., T. Miura, S., Amino & M. Tazawa. Intercellular transport and photosynthetic differentiation in *Chara corallina*. J. Exp. Bot. 42: 33 - 38.
- Muramoto, S., I. Aoyama & Y. Oki. Effect of salinity on the concentration of some elements in water hyacinth (*Eichhornia crassipes*) at critical levels. J. Environ. Sci. Health A 26 (2): 205 - 215.
- Y. Sakurai. Conservation and restoration of natural environment of waterfront in Japan. Rep. Suwa Hydrobiol. 7: 177 - 187.
- <補遺 1981~1989>
- 有馬 進・田中典幸・窪田文武. 1988. トウビシの水中根の生育と光合成速度. 佐賀大学農学部彙報 64: 27 - 35.
- 上原浩一・中村重正. 1988. *Azolla filiculoides* の小孢子壁の超微形態学的研究. 東京農業大学農学

集報 33 (2) : 127 - 138.
大森雄治. 1989. タチアママとオオアマモの花枝と葉の形態. 横須賀市博研報 [自然] (37) : 55 - 59.
岡 彦一. 1989. アメリカンワイルドライス (*Zizania*) における栽培化と育種. 育種学雑誌 39 : 111 ~ 117.
小島 元・井澤俊彦. 1989. 水路雑草クロモの生態・防除に関する研究. 愛知県農業総合試験場研究報告 (21) : 106 - 114.
三谷 進. 1986. 香川県産植物目録 (I). 高知県の植物 (8) : 22 - 35. [ホタルイ属の図説がある]

Kondo, S., S. Hamashima & H. Hashimoto. 1989. Life history and seasonal occurrence of *Pentapedilum tigrinum* Hashimoto associated with *Nymphoides indica* O.Kuntze in an irrigation reservoir. Acta Biol. Debr. Oecol. Hung. 2 : 237 - 245.
Oki, Y. & K. Une. 1989. Noxious aquatic weeds in Japan : a close look at *Trapa*. Asian-Pacific Weed Science Society, Twelfth Conference, 1989 : 115 - 120.

○会員移動 (1991. 1 ~ 6)

〈新入会〉

[Redacted membership information]

[Redacted membership information]

〈退会〉

[Redacted membership information]

〈住所変更〉

[Redacted membership information]